

-translation-

JP 2001-128805A

ABSTRACT

Object:

To provide a seat plate for a chair for surely holding a cover rolled onto the rear surface of the seat plate, having good appearance on the rear surface.

How to achieve the object:

A seat portion 4 comprises a base plate 5 in which support ribs 8a,8b are projected on the rear surface on the inner periphery of a support frame 3; a cushion material 6 which covers the front surface of the base plate 5; and a cover 7 which covers the cushion material 6 and outer periphery from the support ribs 8a,8b on the rear surface of the base plate 5. The peripheral edge of the cover 7 of the seat portion 4 is held between the rear surface of the base plate 5 and the support frame 3 and covered with the support frame 3.

BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS:

Fig. 1 is a side view of a seat-plate-rotation-type chair which comprises a seat plate according to the present invention;

Fig. 2 is an exploded perspective view of the seat plate of the present invention seen upwards;

Fig. 3 is a rear view of the constructed seat plate of the present invention;

Fig. 4 is a sectional view taken along the line IV-IV in Fig. 3;

Fig. 5 is a partially-omitted sectional view taken along the line V-V in Fig. 3;

Fig. 6 is a partially-enlarged perspective view seen upwards to show a corner of the rear surface of a seat portion; and

Fig. 7 is a perspective view seen upwards to show the rear surface of the seat portion.

A: chair, 1: seat plate, 2: leg, 3: support frame, 4: seat portion, 5: base plate, 6: cushion material, 7: cover, 7a: groove, 8a,8b: support rib, 10: notch, 11: binding string, 12: self-tapping screw or bolt

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-128805

(P2001-128805A)

(43) 公開日 平成13年5月15日 (2001.5.15)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 C 31/02

識別記号

F I

A 4 7 C 31/02

テーム(参考)

E 3 B 0 9 1

C

3/04

3/04

5/06

5/06

7/02

7/02

A

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平11-318404

(22) 出願日

平成11年11月9日 (1999.11.9)

(71) 出願人 000000561

株式会社岡村製作所

神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号

(72) 発明者 高木 裕一郎

横浜市西区北幸2丁目7番18号 株式会社
岡村製作所内

(72) 発明者 原 永祐

横浜市西区北幸2丁目7番18号 株式会社
岡村製作所内

(74) 代理人 100060759

弁理士 竹沢 荘一 (外2名)

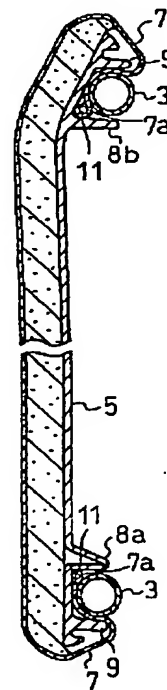
Fターム(参考) 3B091 BA04

(54) 【発明の名称】 椅子の座板

(57) 【要約】

【課題】 座板の裏面に回り込んだ表皮材を確実に保持し、かつ座板裏面側の外観をよくするようにした椅子の座板を提供する。

【解決手段】 座部4が、枠状の支持フレーム3の内周に沿う受支リブ8a、8bが裏面から突設された基板5と、基板5の表面側を覆うクッション材6と、クッション材6と基板5の裏面の受支リブ8a、8bより外側とを覆う表皮材7とを備え、座部4の表皮材7の周縁を、基板5の裏面と支持フレーム3との間に挟み込んで、支持フレーム3により覆い隠すようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 杵状の支持フレームに、座部の裏面側の周縁部を載置して支持した椅子の座板であって、前記座部が、前記支持フレームの外周に沿う係止リブが裏面から突設された基板と、該基板の表面側を覆うクッション材と、該クッション材と前記基板の周辺部とを覆う表皮材とを備え、前記座部の前記表皮材の周縁を、前記係止リブの先端を経て、前記基板の裏面と支持フレームとの間に挟み込んで、支持フレームにより覆い隠すようにしたことを特徴とする椅子の座板。

【請求項2】 基板の裏面に、支持フレームの内周に沿う受支リブを突設し、表皮材の周縁に形成された挿通部に挿通した可撓性の締付紐条を緊張させて、表皮材の周縁を受支リブの外周まで窄め、もって、前記挿通部の内方移動を、受支リブによって規制するようにした請求項1記載の椅子の座板。

【請求項3】 座部及び支持フレームをほぼ方形とするとともに、リブの角部に、表皮材の周縁に係合可能な切り欠き部を設けた請求項1または2記載の椅子の座板。

【請求項4】 支持フレームを、左右に対向する脚体に、ほぼ水平状態とほぼ垂直状態との間で回動可能に取り付けた請求項1～3のいずれかに記載の椅子の座板。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、椅子の座板に関し、特に、ネスティング格納可能、すなわち前後方向に重ねて格納できるようにした椅子に好適に用いられる座板に関する。しかし本発明は、椅子の背当てにも適用することができる。

【0002】

【従来の技術】従来、座板を形成するのに、基板の上にクッション材を設け、このクッション材と基板とを、基板の裏面の中央部を残して表皮材で覆い、この表皮材の側縁に形成された筒状の挿通部に可撓性の締付紐条を通して、これを緊張させることにより、表皮材の周縁を窄めて一体化するやり方が行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような座板の形成法は合理的なものではあるが、表皮材の挿通部、すなわち周縁部が均一に窄まないのが、座板を裏面から見た場合、やや見苦しい。特に、椅子がネスティング格納可能で、座板を起立させるものである場合、座板の裏面が正面から見えるので、体裁が悪い。

【0004】本発明は、上述の問題に鑑み、基板の裏面に回り込んだ表皮材を確実に保持し、かつ座板の裏面の見栄えをよくした椅子の座板を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によると、上記課題は、次のようにして解決される。

(1) 杵状の支持フレームに、座部の裏面側の周縁部を載置して支持した椅子の座板であって、前記座部が、前記支持フレームの外周に沿う係止リブが裏面から突設された基板と、該基板の表面側を覆うクッション材と、該クッション材と前記基板の周辺部とを覆う表皮材とを備え、前記座部の前記表皮材の周縁を、前記係止リブの先端を経て、前記基板の裏面と支持フレームとの間に挟み込んで、支持フレームにより覆い隠すようにする。

【0006】(2) 上記(1)項において、基板の裏面に、支持フレームの内周に沿う受支リブを突設し、表皮材の周縁に形成された挿通部に挿通した可撓性の締付紐条を緊張させて、表皮材の周縁を受支リブの外周まで窄め、もって、前記挿通部の内方移動を、受支リブによって規制するようにする。

【0007】(3) 上記(1)または(2)項において、座部及び支持フレームをほぼ方形とするとともに、リブの角部に、表皮材の周縁に係合可能な切り欠き部を設ける。

【0008】(4) 上記(1)～(3)項のいずれかにおいて、支持フレームを、左右に対向する脚体に、ほぼ水平状態とほぼ垂直状態との間で回動可能に取り付ける。

【0009】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の座板(1)を備える椅子(A)の側面図である。この椅子は、座板(1)を、実線で示すほぼ水平状態(使用位置)から、想像線で示すほぼ垂直状態まで回動させることができる。

【0010】図2は、座板(1)を、分解した状態で示す下方斜視図である。座板(1)は、脚体(2)の上部の水平部分を構成するほぼ方形杵状の鋼管製の支持フレーム

(3)と、座部(4)とからなっている。

【0011】座部(4)は、支持フレーム(3)に対応する形状のほぼ方形の基板(5)と、クッション材(6)と、表皮材(7)とからなっている。

【0012】基板(5)は、硬質合成樹脂材料の一体成型品であり、図3～図5に示すように、中央部(6)がやや下方に窪み、かつ周縁部を除く後半部に多数の小孔が穿設されて、体重が負荷される着座者の尻部に対応する部分に、弾性が付与されている。

【0013】基板(5)の裏面には、支持フレーム(3)の内周に沿う位置において、受支リブ(8a)(8b)が突設されている。図4～図6に示すように、基板(5)の左右側部及び後部に形成されている受支リブ(8a)は、V字状をなし、基板(5)に、荷重に対する屈従性を付与している。基板(5)の前部に形成されている受支リブ(8b)は、単なる突出リブである。

【0014】基板(5)の裏面の周縁部には、支持フレーム(3)の外周に沿う位置において、係止リブ(9)が突設されている。係止リブ(9)は、後述する表皮材(7)の周縁部を、支持フレーム(3)との間に押さえ込んで、表皮材(7)を緊張させるとともに、表皮材(7)が外部に露呈

しないようにするためのものである。

【0015】図6に拡大して示すように、基板(5)における受支リブ(8a)(8b)の各角部には、その中間部から基部にかけて、水平方向の切り欠き部(10)が穿設されている。

【0016】クッション材(6)は、例えば発泡ポリウレタンのような軟質弾性材料からなる適宜の厚さのシートである。

【0017】表皮材(7)は、例えば織布、ビニールレザーのような適宜な材料で作られ、図2、図6及び図7に示すように、その周縁には、折り返して縫った袋状の挿通部(7a)が形成されている。挿通部(7a)には、可撓性の締付紐条(11)を挿通し、その両端を、挿通部(7a)の途中から外へ引き出してある。

【0018】座部(4)の形成に当たっては、まず表皮材(7)を裏返しとして適宜の台の上に置き、この上にクッション材(6)を載置し、さらにその上に、基板(5)を裏返しとして置く。

【0019】ついで、図7に示すように、表皮材(7)の全周縁部を、係止リブ(9)の先端を経て、基板(5)の裏面側に折り返して、締付紐条(11)の両端を強く引く。

【0020】すると、図3及び図6に示すように、締付紐条(11)は、受支リブ(8a)(8b)の外周に沿って窄まるが、角部においては、ここを近道して切り欠き部(10)に入り込む。締付紐条(11)を挿通した表皮材(7)の挿通部(7a)も、締付紐条(11)に引きずられて切り欠き部(10)に入り込む。このようにして、表皮材(7)は、クッション材(6)をくるんで、たるみなく基板(5)の裏面に確実に係止され、座部(4)が形成される。

【0021】こうして得られた座部(4)は、図3～図5に示すように、基板(5)の受支リブ(8a)(8b)と係止リブ(9)との間に支持フレーム(3)をはめ込んで、セルフタッピングねじまたはボルト(12)により固定する。この時、表皮材(7)の基板裏側に回り込んだ部分は、基板(5)の裏面と支持フレーム(3)との間、および係止リブ(9)の内側面と支持フレーム(3)との間に挟まれて、係止はさらに確実なものとなり、かつ皺を寄せられた表皮材(7)の周縁部は、支持フレーム(3)により隠される。

【0022】

【発明の効果】本発明は、次のような効果を奏する。請求項1記載の発明によれば、表皮材の基板裏側に回り込んだ部分は、基板の裏面と支持フレームとの間に挟まれ

て確実に係止され、しかも、表皮材の周縁部が全周に亘って支持フレームにより均一に隠されるので、座板裏面の外観がすぐれたものとなる。

【0023】請求項2記載の発明によれば、締付紐条を引いて緊張させるだけで、クッション材を弛みなくするんで、表皮材の周縁を基板の裏側で係止することができ、かつ締付紐条は、一定位置より内方へ移動することはない。

【0024】請求項3記載の発明によれば、締付紐条及び表皮材の周縁部が、角部において切り欠き部に入り込むので、表皮材の係止がさらに確実なものとなる。

【0025】請求項4記載の発明によれば、ネスティング格納等のために、座板をほぼ垂直位置に起立させて座板の裏面が見える状態となっても、外観を損なうことがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の座板を備える座板回動式の椅子の側面図である。

【図2】本発明の座板の分解下方斜視図である。

【図3】組み立てた状態における本発明の座板の裏面図である。

【図4】図3のIV-IV線に沿う断面図である。

【図5】図3のV-V線に沿う拡大断面図で、一部分を省略して示す図である。

【図6】座部の裏面の角部を示す部分拡大下方斜視図である。

【図7】座部の裏面を示す下方斜視図である。

【符号の説明】

(A)椅子

30 (1)座板

(2)脚体

(3)支持フレーム

(4)座部

(5)基板

(6)クッション材

(7)表皮材

(7a)挿通部

(8a)(8b)受支リブ

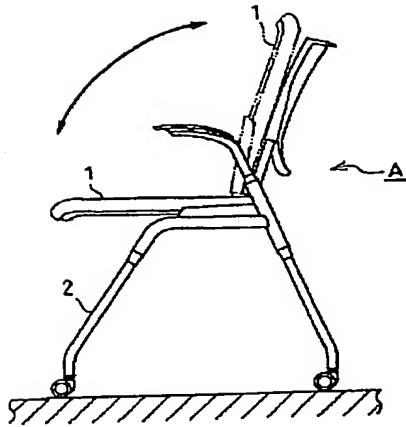
(9)係止リブ

40 (10)切り欠き部

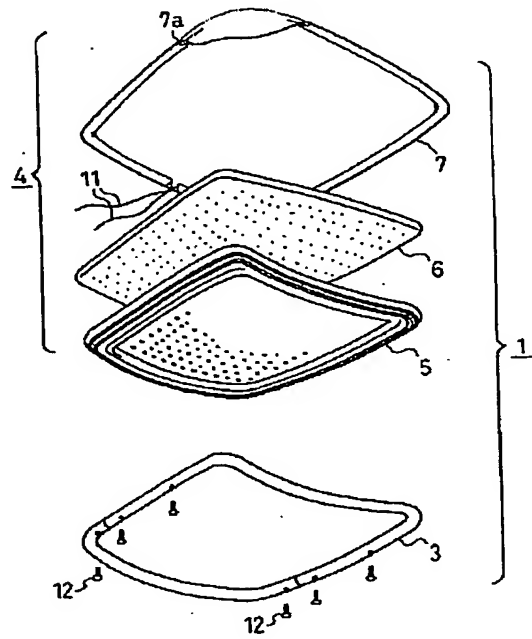
(11)締付紐条

(12)セルフタッピングねじまたはボルト

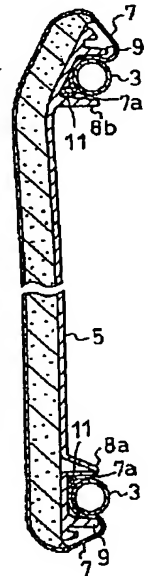
【図1】



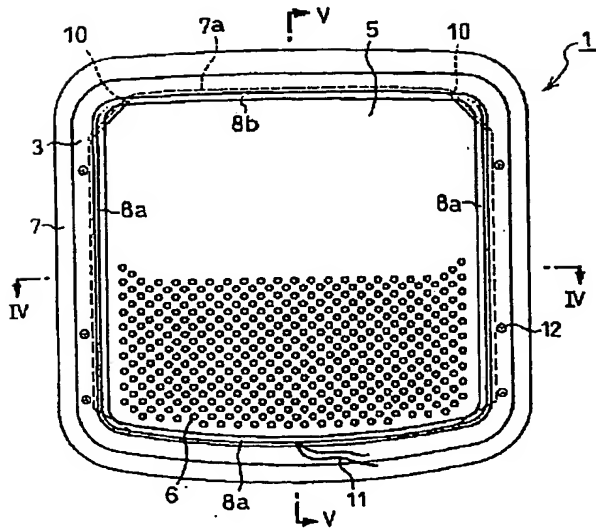
【図2】



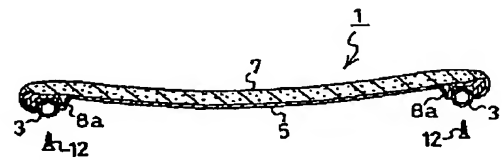
【図5】



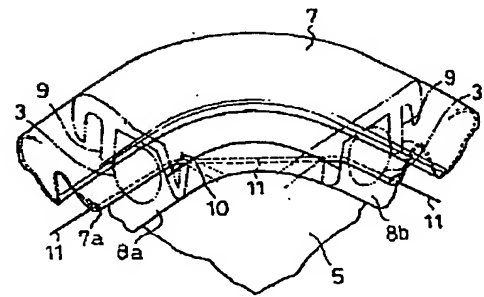
【図3】



【図4】



【図6】



(5)

特開2001-128805

【図7】

